第131回プリオン専門調査会
資料3より

評価の考え方（案）

参考資料3－3

**今般の評価依頼に対して、ハザードを特定し、
現在までに得られた科学的知見について整理する**

評価のポイント

評価の前提

BSEの現状（発生状況等）、日本におけるリスク管理措置の実施・順守状況等の確認

ハザードの特定

○定型BSE

・飼料規制等のBSE対策が継続されている中では、今後日本において発生する可能性はほとんどない。

○非定型BSE

・H-BSEについては、これまで得られた実験動物への感染実験の結果から、人への感染の可能性は確認できない。

・L-BSEについては、これまで得られた実験動物への感染実験の結果から、人への感染の可能性（人獣共通感染症の可能性）が否定できない。

・これまでの審議における異常プリオンたん白質（PrP^{Sc}）の蓄積分布に関する知見を考慮すると、今般の見直し範囲のうち、回腸遠位部及び扁桃へのPrP^{Sc}の蓄積の可能性は低い。一方、背根神経節（DRG）にはPrP^{Sc}蓄積が認められる。

L-BSE由来の脊柱の背根神経節（DRG）に蓄積するPrP^{Sc}をハザードとして特定

ハザードの特性評価

特定されたハザードに関連して、現時点における、以下の科学的知見を整理

○非定型BSE
・非定型BSEの発生状況
・実験動物による伝達実験について　等

○非定型BSEと人への感染リスク
・人獣共通感染症の可能性
・種間バリア
・疫学情報（人のプリオン病と非定型BSEの関連）　等

○脊柱（背根神経節：DRG）
・DRGの感染価（定型、非定型）について
・国際機関（WOAH）、諸外国における脊柱の取扱いについて　等

○用量反応(Dose-Response)
・プリオン病における人での用量反応(Dose-Response)に係る知見　等

ばく露評価

・脊柱がどのように利用された上で食用に供されるか
・どれくらいの脊柱がフードチェーンに供給されるか
等の利用可能なデータを確認した上で、日本におけるDRGのばく露量について検討

上記を踏まえ、総合的なリスクの判定を行う